

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 4月 17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600115
法人名	社会福祉法人 桜仁会
事業所名	グループホーム風の詩
所在地	鹿児島県阿久根市赤瀬川276-1 (電話) 0996-64-6211
自己評価作成日	2013/1/21

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・風の詩は、見晴らしのよい高台に立地しており、近隣に介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどがあり、昔からの知り合いの方に会いに行ったり、施設開催の行事に参加する事ができ、利用者にとって楽しみのある環境となっています。地域の行事月1回開催される生き生きサロンに参加し、馴染みのある方とお茶を飲んだり、体操をしたりしています。夏にはお魚祭りを見学しています。利用者と職員が和やかに毎日を過せるよう、コミュニケーションを密にすることで実現に近づけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【理念の共有】

・職員全員で考えた理念を大切にしており、理念を毎朝復唱し頭に入れて日々のケアの実践につなげている。また、日頃から理念が事業所の現状に即しているかを話し合うなど、理念を振り返る時間を大切にしている。

【地域との交流】

・同法人の運営する特別養護老人ホームが隣接しているため、老人ホームで開催される「夏祭り」や「文化祭」等に参加し、地域の方と交流を図ったり、友人知人らと面会するなど懐かしい時間を共有し合っている。また、毎月開催される生き生きサロンに参加して体操やゲーム、茶話会など楽しい時間を過ごしている。

【災害対策】

・消防署立会いの下での避難訓練を年2回実施し、隣接する特別養護老人ホームの職員とも連携して避難経路の確認を行なった。災害時は地域との連携も必要であることから、事業所の見学を積極的に受け入れるなど日頃の交流を大切にしていきたいと考えている。また、備蓄についても保管している物品が確認しやすいよう一覧表にまとめ備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所会議でスタッフ間で理念の中身の確認を行っている。毎朝朝礼時に復唱し頭の中に入れてケアを行っている。	職員全員で考えた理念を玄関と食堂、職員室に掲示すると共に毎朝の朝礼時に理念を復唱しケアの実践につなげている。また、理念が事業所の現状に沿っているかについても朝礼や毎月のミーティング時に確認し合うなど、理念を共有し実践に向けてこまめに話し合いがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の生き生きサロンへ月1回参加し、地域の方との交流を図っている。自治会に入っているが市報が回ってこないためか、行事の把握がしっかり出来ていない。	日頃から近所に散歩や買い物、お墓参りなどに出かけたり、近隣の方からお裾わけを頂くなど地域の人々と馴染みの関係を築いている。月1回の生き生きサロンに参加し、地域の方と一緒にゲームや茶話会を楽しみ、同法人の特養で開催される夏祭りや文化祭に参加するなど積極的に地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	実習生の受け入れ時は利用者への対応の方法を伝え、利用者にも楽しい気持ちで過ごして頂けるよう配慮している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。非常食の準備や避難方法について話し合い、特老の職員の協力ももらい実行している。夏祭りなど市の行事へのお誘いもして下さり、参加することでサービスの向上に勤めている。	定期的開催され、会議では事業所での取り組みや外部評価の結果報告、出席の行政の方からも感染予防等の情報提供を受けるなど活発に情報・意見交換を行っている。事例として、昨年近隣で発生した火災の状況を再確認し、改善点や対策について具体的に話し合い、アイデアを頂くなどサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	月に1度利用者状況をFAXまたは直接市役所へ提出している。介護保険更新時に市役所へ行き、パンフレットの残りを確認したり、介護保険系の主催する連絡会に参加し、関係を築けるよう努めている。	毎月の利用者状況を報告するため、月に一度、市役所を訪問し担当者との意見交換している。また、運営推進会議でも行政職員と話をすることがあるため、日頃から連携し話しやすい関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者へのケアが身体拘束に当るものではないかをスタッフ間で事業所会議の中で話し合っている。外出しそうな利用者に対して外を散歩して気持ちが落ち着くよう配慮している。	身体拘束廃止に向けた研修会を年1回程度開催すると共に日頃から言葉による拘束についても話し合うなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。利用者が外出しそうな様子を察知した時は、職員間で声かけを密に取りながら連携し合い、個人の行動に合わせ意志を尊重したケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に付いての勉強会を実施し、資料をいつでも見れるよう常に再確認できる環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	人権擁護について研修会に参加し、理解出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時表を用いて利用料金の説明をしている。また、生活していく上でのご家族の希望を伺い、叶えられるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会・来居時に意見・要望がないか常に伺うようにしている。出された要望についてスタッフ・事務長と話し合い反映させている。	利用者の意見や要望は日頃の言動から把握するとともに、思いを伝えられない利用者については、家族の意見や要望を伺うようにしている。家族からは面会時や年4回の家族会、担当者会議等、意見を聞く機会が多く、運営推進会議で意見の反映につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	園長は1日に1回は風の詩に顔を出し、お茶を飲みながら職員の話の聞いている。	朝礼やミーティング、休憩時間など管理者はこまめに職員の意見を聞くようにしており、園長も毎日事業所を訪れ職員の意見を聞くよう努めている。人事異動など大きな決定についても職員の意見を聞き最適な選択となるよう調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	産休が取れるよう配慮し、育休後の職場復帰にも本人の希望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外の研修に積極的に参加できるように、参加したい旨があった時は行ってもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>阿久根市内のグループホームの管理者などと話す機会をもっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談を行い、ご本人の希望を聞きだせるようにしている。利用初期は時間をかけてご本人の話の聞き、落ち着いた生活が出来るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いの中で、何に困っているかを聞き、事業所での対応を説明し、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用初期に生活に馴染めるよう側に寄り添い、必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を敬い、共同した生活が出来るよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、月間報告書を作成し、毎月の様子について報告している。お便りでは写真の紹介も行っている。電話や来居時に情報交換を行い、ご本人とご家族との関係を築けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブやお墓参り時に馴染みの場所へ行き、懐かしめるよう配慮している。月1回の地域の行事、生き生きサロンへ参加し、交流が継続できるよう努めている。	入居前の交流関係やかかりつけ医、生活歴等については、基本台帳に詳細に記載され、入居後もその関係が途切れないよう家族と職員とが連携し合い外出を支援している。また、日常的に電話の取り次ぎやお墓参り、自宅に連れていくなど本人の思いを尊重した支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について事業所会議やミーティングで情報共有できるようにしている。仲の良い利用者同士で良い関係で付き合えるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し、他の事業所へ移られた際には、ご本人の情報を移った事業所のスタッフに申し送っている。また、時々面会に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	朝の挨拶時など日々関わりの中でご本人に希望や要望を聞き、事業所会議やミーティングでスタッフ間の情報交換を行い、検討している。	日常の会話の中から思いを汲み取るとともに表情や行動、家族から思いや意向を聞き取り把握している。把握した内容は「申し送りノート」に記入し朝礼時やミーティング時に確認し合い情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人に暮らしについて情報収集し、ご本人の理解を深めることに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握する為に、スタッフ間で情報共有している。できる事を知り、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に生活について要望を聞き、わかりにくい場合はご家族とスタッフで話し合い、要望が叶えられるよう努力している。個別のケアプランについては担当スタッフとも話し合いチームケアが反映できるようにしている。	本人、家族の意向を確認するとともに日頃の様子や思いを反映させ、利用者主体の介護計画を作成している。モニタリングは3か月ごとに行ない、状態が変化した時には随時話し合いがなされ、利用者の現状に即した介護計画を作り直し、利用者や家族に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録・排泄・食事・水分チェック表などを活用し、日々の様子を記録している。記録からご本人に対して最良のケアが出来るようスタッフ間で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に応じて、通院・外泊等の要望があった時には対応出来るよう勤務体制の変更を行い、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生き生きサロンへの参加、夏祭りへの参加など市役所の介護保険係の方と話し合い、出来るだけ参加できるよう努めている。また、法人内の行事・他事業所の行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力病院の医師の往診がある。利用前のかかりつけ医に継続して受診に行き、本人にとって今必要な医療が受けられるよう配慮している。	多くの利用者は、緊急時の対応や安心面等を考慮して協力医療機関による往診を本人、家族の同意の下で受けている。往診の際には事前に「処方依頼書」にてバイタル等報告しており、往診の内容については、申し送りノートや支援経過に記入し、職員間で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと1年契約しており、週1回訪問してもらい、小さな変化に気づけるようにしている。状態変化時は連絡をとり助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関の地域連携室と連絡を取り合い早めに退院できるようにしている。職員が見舞いに行き、ご家族と情報交換し、退院について話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所の対応について、ご家族に説明している。ご家族本人の意思を確認し、医療機関との連携を図っている。	重度化や看取りについては、契約時に本人、家族に確認しており、入居後も状態に応じて随時確認するなど、本人や家族の思いに配慮している。また、家族会でも再確認するなど、繰り返し話し合いを重ねている。職員は終末期の在り方についての研修会を行っており、今後終末期に向けた体制を整えていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションの看護師と緊急時の対応について助言をもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で避難方法について話し合いを行っている。消防署立会いの訓練を行っている。特老の職員に協力してもらって避難訓練を行っている。夜間災害時の時に備えて7～8人グループホーム内の見学に来てもらっている。	災害マニュアルを作成し、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。訓練には隣接する特別養護老人ホームの職員も参加しており、避難状況や避難経路の確認を行なった。また、災害に備えて地域の方に見学に来てもらうなど協力体制の強化を図っている。備蓄については、食料や飲料水のほかに毛布などの物品も準備され、管理しやすいよう備蓄内容を一覧表にまとめている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解し、尊厳を傷つけない言葉掛けを心がけている。	日頃より利用者の思いに耳を傾け、利用者のしたいことやしてほしいことの把握に努め接するように心掛けている。職員は年1回「プライバシー研修」を実施し利用者との接し方や関わり方について学ぶ機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう、嫌がられたときは無理に誘わず、ご本人がその気になるまで待っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、その人がしたいことを尊重し、その人のペースで暮せるよう支援している。共同生活と個別生活が合わさるような支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に1回散髪を行っている。ご自分の入浴後の髪の設定・化粧水などをしてもらっている。爪切り・髭剃りもご本人の希望で行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物注ぎ、お膳拭き、食器洗い、買い物、配膳など手伝って下さっている。一緒に食事を摂り楽しく会話をしている。	食事は職員が立てた献立を基に作っているが、利用者の希望に応じてメニューを変えるなど、好みやその日の気分でおいしく食事が食べられるよう支援している。また、季節や行事に合わせて特別メニューを提供するなど工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表と体重測定し、栄養状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に見守りで義歯洗浄や口腔ケアティッシュを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を元にトイレ誘導行い、トイレでの排泄に努めている。	夜間のみポータブルトイレを利用したり、リハビリパンツや尿取りパットの組み合わせに変化を持たせるなど配慮するとともに介護計画に組み込み、職員全員で状況に応じた排泄支援を行っている。日中は排泄チェック表を基にさり気ない声かけによりトイレ誘導を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄できるようメニューの内容を考えている。やむを得ない時は下剤を使用し、便秘にならないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴拒否については、日を変更したりして対応している。入浴日は決まっているが、いつでも入れるようにしている。	基本的に午前中を入浴時間に設定しているが、利用者の体調や希望によりいつでも入浴できるよう支援している。入浴拒否のある方に関しては、声のかけ方や声かけのタイミングを工夫し状況に応じて入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを崩さないよう休みたいときに休んでいただいている。昼夜逆転にならないよう覚醒を促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所会議で薬の内容の確認をし、副作用についてスタッフ全員がわかるようにしている。効能書をいつでも見れるよう環境を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ・散歩・草取り・家の野菜の収穫などでストレス解消してもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物・ドライブ・知った人とのふれあい、お花見・生き生きサロンへの参加などを支援している。	日常的に買い物やドライブ、お墓参り等に出かけており、花見や夏に開催される「お魚祭り」など地域行事に積極的に出かけ地域との交流を図っている。また、隣接する特別養護老人ホームで開催される「文化祭」や「夏祭り」にも利用者とともに参加するなど五感刺激の機会を増やし気分転換を図るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金の管理をスタッフがしている。小額の小銭を所持してもらい、ご本人に管理してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話したい時に電話できるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自分の自室やトイレが分かるよう張り紙をしている。ロビーは西日が入ってくるので、利用者の目に入らないよう障子を使い調節している。</p>	<p>座れるスペースの確保された玄関は、明るく使いやすい造りとなっており、ロビーや廊下も適度な明るさが確保されるなど気持ちよく過ごせる環境になっている。リビングには季節を感じさせる作品が飾られている。目隠しのための衝立が用意され、利用者個人を大切にす配慮がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ロビーにはソファを4つ置き、テレビが見たいときに座るところ、一人で静かに過ごしたい時に座る場所があり、それぞれお好きなどころに座れるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>遺影やご本人が懐かしいと思えるものをご家族に持って来て頂き、心地よく過せるよう配慮している。</p>	<p>各居室にはベッドやタンス、エアコン、洗面台が備え付けられ、トイレ付の居室も3部屋用意されるなど大変使いやすいものとなっている。また、居室は自宅から持ち込まれた位牌や写真、ぬいぐるみなどが置かれ、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーとなっている。自室がわかるよう大きな表示をし、トイレに行きやすいよう表示をしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない